（別紙３）

公表　児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	スモールステップ　ワンダー			
○保護者評価実施期間	R8年　2月　2日	～	R８年　2月　18日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	8名	（回答者数）	６名
○従業者評価実施期間	R8年　2月　2日	～	R８年　2月　18日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	６名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年　2月　21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	社会性（集団参加・やりとり・ルール理解）を目的にした支援が充実している。	小集団活動で順番・待つ・譲る・お願い等を練習し、成功体験につなげている。トラブル時は気持ちの整理と言い換えを支援している。	社会性の到達目標（挨拶、順番、断り方等）を段階表で整理し、家庭・園（学校） と共有して一貫支援につなげる。
2	ダンス療育・ボルダリング等、身体を使った活動で自己表現や意欲を引き出せている。	ダンスは模倣・リズム・表現を楽しめる構成、ボルダリングは達成感と挑戦意欲を育てる。安全配慮と段階づけで参加しやすくしている。	活動のねらい（姿勢保持、協調運動、自己調整、対人ルール等）を 見える化し、個別支援計画と紐づける。
3	就労準備・生活スキルにつながる経験（手先の運動、作業課題等）を取り入れられている。	手先の運動や作業課題を、集中・手順・丁寧さ・報告を意識して段階的に実施している。	評価観点（集中時間、手順理解、正確さ等）を統一し、成長が分かる記録とフィードバックを整える。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	社会性支援の到達目標や評価の基準が、支援者間で統一されにくい。	場面依存が強く評価が主観的になりやすい。目標設定・記録方法が個人差で運用されている。	目標を具体化（順番を待てる、断り方を言える等）し、観察ポイントと記録様式を統一、ケース検討で擦り合わせる。
2	就労準備・作業活動が、発達段階や目的と結びつきにくい時がある。	ねらい・手順・評価が整理されていない。教材・課題のバリエーションが不足しやすい。	育てたい力（手順理解、集中、報告、時間意識等）を整理し、 課題を段階表で整備、振り返りを記録する。
3	ダンス療育・ボルダリング等で、安全管理や個別配慮の共通ルールが必要。	特性（衝動性、感覚過敏、疲労等）でリスクが変わり、注意点共有が不足しやすい。	安全基準（見守り位置、難易度、休憩、禁止事項等）を文書化し事前確認、 特性別配慮も共有して統一対応する。